

環境・エネルギー 工学専攻		受験番号	
------------------	--	------	--

平成 24 年度大学院前期課程
環境・エネルギー工学専攻

小論文
入試問題

平成 23 年 8 月 22 日 (月)
10:00~11:30 実施
S4-111

環境・エネルギー 工学専攻	小論文【問1】	受験番号	
------------------	---------	------	--

(1) 以下の問いに答えなさい。

風評被害とは、辞書によると「根拠のない噂のために受ける被害。本来は無関係であるはずの人々や団体までもが損害を受けること。」とされている。

いま、農業（畜産を除く）、林業、水産業、畜産業、観光業の 5 分野のうち、いずれかにおける風評被害とそれに影響を与える因子について検討したい。

解答欄①に、あなたが注目すべきと考える「事象（事件・事故など）」、解答欄②に風評被害による影響を受けると考える「分野」（上記 5 分野から選びなさい）を明示したうえで、解答欄③に、下記(a)～(d)の観点を盛り込みながら「風評被害とその影響因子に関する仮説」を述べるとともに、「その仮説を検証する方法」について具体的に論じなさい。

- (a) 当該分野についての検討が重要だと考える理由
- (b) 当該分野で発生すると想定される風評被害の具体的内容
- (c) その風評被害に影響すると考えられる因子（複数でも可）
- (d) 上記因子が影響すると考えられる理由

※ 出題意図…問題発掘能力と研究計画立案能力を問う。環境・エネルギー工学を学ぶ者として明らかな事実誤認がある場合は減点対象とするが、知識の豊富さや記述内容に正解を求める出題ではない。

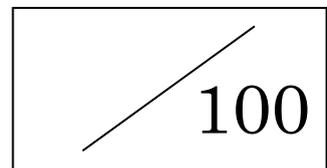
以下に記入すること

①事象： _____

②分野： _____

③仮説とその検証方法：

【解答には裏面を用いてもよい】



以下に記入すること

以下に記入すること

環境・エネルギー 工学専攻		受験番号	
------------------	--	------	--

平成 25 年度大学院前期課程
環境・エネルギー工学専攻

小論文
入試問題

この表紙の余白は下書きとして用いてもかまわない。

平成 24 年 8 月 27 日 (月)
10:00～11:30 実施
会場 S4-111

環境・エネルギー 工学専攻	小論文	受験番号	
------------------	-----	------	--

以下の各問いに答えなさい。(問いは2問あります)

- (1) わが国における少子高齢化の進展が、今後、環境問題やエネルギー問題にどのような影響を与えるか、あなたの考えを600字程度で述べなさい。
ただし、最後は「以上から、・・・が最も重要な課題であると考え。」(「・・・」の部分はあなたの考える課題)と文章の最後を結び、あなたの課題認識を明確に示しなさい。

以下に記入すること

(1)

以下に記入すること



(2) (1) の最後の結びの文章であなたが述べた課題「・・・」の解決に向けて、環境・エネルギー工学分野では、どのような研究アプローチをすべきと考えるか。あなたの研究計画を以下の(a)~(e)の順に述べなさい。ただし、研究期間は2年間とする。

- (a) 研究テーマ
- (b) 実施しようとする研究の概要 [200 字程度] と研究のフロー図
- (c) 実施方法や必要な機材等
- (d) 想定される研究成果
- (e) 研究成果の活用方法

以下に記入すること

(2)

(a)

(b)

以下に記入すること

(c)

(d)

(e)

環境・エネルギー 工学専攻		受験番号	
------------------	--	------	--

平成 26 年度大学院前期課程
環境・エネルギー工学専攻

小論文
入試問題

平成 25 年 8 月 26 日 (月)
10:00~11:30 実施

以下に記入すること

研究の手順を示すフロー図

(c) 必要な資料、機材等

【裏面に続く】

以下に記入すること

(d) 予想される研究成果

(e) 研究成果の活用方法

以下に記入すること

環境・エネルギー 工学専攻		受験番号	
------------------	--	------	--

平成 27 年度大学院前期課程
環境・エネルギー工学専攻

小論文
入試問題

科目名	出題番号
小論文	問 1 (1) (2) (必修)

【注意】

- ・ 本紙および全ての問題解答用紙に受験番号を必ず記入すること。

平成 26 年 8 月 25 日 (月)
10:00～11:30 実施

環境・エネルギー工学専攻	第1志望 コース		受験 番号	
--------------	-------------	--	----------	--

平成28年度入学大学院前期課程

環境・エネルギー工学専攻

(環境工学コース)

小論文 入試問題

科目名	出題番号
小論文	問1(1)(2) (必修)

【注意】

- 本紙および全ての問題解答用紙に第1志望コースと受験番号を必ず記入すること。

平成27年8月24日(月)

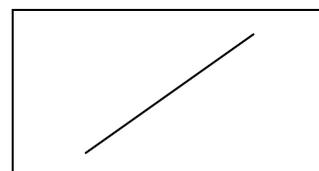
10:00~11:30 実施

小論文【問 1】 (環境工学コース)	第 1 志望 コース		受験 番号	
-----------------------	---------------	--	----------	--

以下の (1)、(2) に答えなさい。なお、目盛りは目安として使用すること。

- (1) 以下の文章を読み、今後の地球や地域社会の持続可能性にむけ、環境工学が担うべき役割について、人材育成という観点で自分の考えを 500 字程度で述べなさい。

我が国では、戦後の高度経済成長期に公害問題が顕著化し、住民に大きな被害が発生しました。特に、水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病及び四日市ぜんそくの「四大公害病」は、社会問題として大きく取り上げられました。一方で、欧米等の国々も酸性雨や農薬等の化学物質を始めとする環境問題に悩まされていました。米国の生物学者であるレイチェル・カーソンが 1962 年（昭和 37 年）に出版した「沈黙の春」は、殺虫剤等に含まれていた DDT 等の化学物質の危険性を訴え、世界の環境保護活動の端緒となりました。このように、公害のような環境問題は、人類の永続的な繁栄を脅かすものとして考えられるようになりました。そのような背景を踏まえ、「持続可能性」という考え方が醸成されていきました。1984 年（昭和 59 年）には、我が国の提案により「環境と開発に関する世界委員会」（以下「ブルントラント委員会」という。）が国連に設置されました。ブルントラント委員会が 1987 年（昭和 62 年）に公表した報告書「我ら共有の未来（Our Common Future）」では、「持続可能な開発（Sustainable Development）」について、「将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満足させるような開発」と定義されました。1992 年（平成 4 年）には、ブラジルのリオデジャネイロで「国連環境開発会議（UNCED、地球サミット）」が開催され、「持続可能な開発」の指針である国際的な行動計画「アジェンダ 21」が採択されました。アジェンダ 21 の第 36 章「教育、意識啓発及び訓練の推進」では、「持続可能な開発」のために意識啓発を推進することが重要である旨が明記されました。我が国は、「持続可能な開発」の達成のためには人材育成が重要であることを鑑み、2002 年（平成 14 年）に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）」で、2005 年（平成 17 年）～2014 年（平成 26 年）を「国連持続可能な開発のための教育の 10 年（UN Decade of Education for Sustainable Development、以下「国連 ESD の 10 年」という。）」とすることを提唱しました。この提案に基づき、第 57 回国連総会において、「国連 ESD の 10 年」が採択され、国連教育科学文化機関（UNESCO、以下「ユネスコ」という。）がその主導機関となりました。これ以後、「持続可能な開発のための教育（ESD）」の取組が、我が国を含む各国・各地域の様々な主体により取り組まれることとなりました。（平成 27 年度環境・循環型社会・生物多様性白書第一部より引用）



(2) 環境は、大づかみにいうと、資源採掘、生産、消費、廃棄といった各分野を包括する巨大なシステムであり、各分野は相互につながっているという理解が重要である。そこで、a)自身が、もっとも重要と考える環境問題を取り上げ、それを構成する事象間の相互関連が生み出す問題の中から研究課題を絞り込み、b)解決策を導きだすまでの手順、期待される結果と考察についてあらかじめ見通しを持って取り組むことについて以下の問いに答えなさい。

- (a) 下線部分 a)で取上げた研究対象と研究課題を構成する事象間の相互関連の内容を簡潔に述べなさい。
- (b) 下線部分 b)について、論理性に留意してそのために必要となる研究計画の内容を簡潔に説明しなさい。(500字程度)

以下に記入すること

(2) (a)

